

平成29年度決算審査特別委員会委員長報告

決算審査特別委員長報告を行います。

9月3日に開催された本会議において、委員8名による決算審査特別委員会が設置され、同日に認第1号「平成29年度安来市一般会計決算の認定について」及び認第2号から認第9号の「平成29年度各特別会計決算の認定について」を付託されました。その9件の認定案件につき、審査を行ないましたので、その経過と結果及び審査意見について報告いたします。

9月4日に開催された第3回決算審査特別委員会では、2名の監査委員にも出席を求めました。岸田代表監査委員からは「今回監査する上で注意したのは住民監査請求があるのかどうか、不正な会計があるか、の2点である」と説明がありました。

第3回から第5回までの委員会では、副市長をはじめ担当職員からの説明を求め、常任委員会ごとに慎重審議を行いました。

9月14日に開催された第5回の委員会において、各委員からの質疑、意見等が出尽くした段階で、「認第1号から認第9号までを執行部提出原案のとおり認定することとしてよいか」を諮り、その結果すべて全会一致で認定することと決しました。

審議の中で出た主な質疑は次のとおりです。

総務企画委員会所管についての主な事項では、温泉施設管理費において、富田山荘と湯田山荘の改修・修繕工事を行っているが、これらは赤字経営が続いている施設であり、改善をしながら施設を維持していくのか、その必要があるのか、検討はなされているのかとの質問に、執行部からは、施設が古いため維持修繕を行っているものであるが、湯量の関係からこれらの施設を維持していくのは困難であり、施設を残すかどうかは検討中である。富田山荘を残したいという意見はあるが、今のような運営体制ではとても黒字化や誘客は望めない。残すとなれば相当な覚悟でリニューアルしていかなければならないので、現在検討している、との答弁がありました。

文教福祉委員会所管についての主な事項では、がん対策事業について、大腸がん検診受診者数は目標値と実績値にかなり開きがあるがなぜか、という質問に対し、平成27年度に2,000人近く受診者がいた経過があり、それを踏まえて目標を設定していたが、その後受診者数が減少している状況であり、不定期で受ける人が多いと考えている。今後は啓発を工夫していきたいと答弁がありました。

地域振興委員会所管についての主な事項では、有害鳥獣捕獲事業について、平成28年度はイノシシの捕獲数が約1,200頭であったが平成29年度は600頭であった。農作物の被害状況はどうかとの質問に対し、被害額は、平成28年度は938万7千円、平成29年度は622万7千円と、約300万円の減であったとの答弁がありました。

各委員会所管の審議後に行なった総括質疑においては、委員から、基金に頼らない財政運営ということを毎年言われているが、財政調整基金、特定目的基金を合わせ前年度より約10億円減っている。事業の見直しにより約3億2千万円削減されていても基金に頼らざるを得ない状況が続いている。今後どうするのかという質問がありました。執行部からは、三大事業のために昨年度まで大きな金額を使ったところであり、その償還がある程度終わるまでは基金に頼らないのは難しいと考えている。当分の間は基金を有効に使いながら、できるだけ市民サービスを落とさないように留意したいと答弁がありました。

市長からは、基金は目的があって積み立てるものであり、使ってはいけないものではないが、計画的にやらなくてはいけないと思っていると説明がありました。

また、公共施設等総合管理計画については、実施の前倒しをするなどもっとスピードを速めて行なわなければ、成果は上がらないのではないかと、という質問が出ました。市長からは、今後皆の協力を得ながら、なるべく早く進めていきたいとの答弁がありました。

9月19日に第6回決算審査特別委員会を開催し、今回の審査を通じた最終的な指摘事項、審査意見をまとめました。

以下、指摘事項並びに審査意見を申し上げます。

1. 財政運営について

平成29年度決算の状況は歳入総額279億1千万円余で前年比8.3%減、歳出総額275億4千万円余で、前年比7.3%減となりました。形式収支は、3億6千万円余、実質収支は3億9百万円余であり、財政指数では改善された項目もありますが、平成29年度の地方債残高は384億7千万円余と、前年度より約9億円増となり、年々増加傾向にあります。基金現在高も平成28年度は87億4千万円余が平成29年度決算では77億4千万円余となり、約10億円減っています。今後は三大事業の償還も始まり、一層厳しい財政運営が見込まれます。基金ありきの予算編成ではなく、抜本的な事業の見直しを図り、一層の行財政改革を進められたい。

2. 市有財産の管理について

将来の財政負担の軽減・平準化を図る目的で、公共施設等総合管理計画が策定され、個別行動計画の策定に向け検討が進められています。本市全域にまたがる公共施設を縮小・統廃合・複合化・除却するという大事業は重要課題であるため、計画期間の前倒しや、計画の見直しをするなど速やかに推進されたい。

3. 収入未済額について

健全な財政運営には、自主財源である税収の確保と、税負担の公平性の確保が不可欠となります。収納率は前年度を上回り、収入未済額も圧縮されましたが、今後も市税、国保税の滞納が減少するよう、今後とも収納体制の強化を図られたい。

4. 健康増進施策について

本市では「健康やすぎ21」で様々な取り組みをされているが、がん検診受診者数や特定健診受診率などが伸び悩んでいます。少子高齢化と人口減少が進むなか、疾病の予防と社会参加などをあわせ健康寿命の延伸に努めることが重要です。そして、生涯現役社会をめざすことによって、財政の観点からも医療費・介護費の削減につながるものと考えられます。ICTの活用によるデータ取得を含め、新たな健康増進施策の推進を図られたい。

今回の決算審査が今後の安来市財政の健全化への一助となることを望み、決算審査特別委員長報告といたします。